クラブ活動二題 (※1)

高普第16回卒　鈴木　光一 (※2)

私が１年から２年まで在部していた庭球部（軟式）は最不振期であったと思う。昭和37～8年の頃である。現在の立派な体育館のある場所に相中時代のオンボロ長屋の部室があり、その北脇にこれまたひどいコートがあった。ガラスの破片や石コロが埋まっていて、幾らローラーをかけても平らにならないデコボココートだった。汚い部室と最悪のコート！　このような状態なので部員も何人もいなかったし、良い成績など上がる訳がなかった。

その内、相女のコートを貸してくれるということになった。男子禁制の相女に初めて行ってびっくりした。そのコートのすばらしいこと！　面数の多いこと！　相女の部員は幾面ものコートで伸び伸びと練習している。相高と相女の大きな格差に声も出なかった。ようやく庭球部らしい練習ができるようになり、顔も腕も真っ黒くなって、日の暮れるまで球を打った。相女部員ともよく練習をしたが、腕は相女の方が上だったようだ。

その後、相女側から相高専用のコートを南東端に作ることが許可されたというので、喜びに溢れて夏休み一杯かけて作業した。炎天の下、土運び、土慣らし、ローラー掛けに明け暮れ、ようやく完成を見た。

ところがコート完成間もなく、相女側から相高生の使用が不許可になったのである。詳しい経緯は不明である。一夏流した汗がまったく無駄だったことに、部員皆失望し涙を流した。またガラスと石コロのコートに帰らなければならなくなった‥‥‥。

私は大学受験も考慮し英語クラブに移った。時に昭和38年の秋、２年生。

英語クラブの顧問の渡辺高明 (※3) 先生は、母校普通科第一回卒で、東北大文学部仏文科の大学院を出られたユニークな方であった。福島大経済学部主催の英語弁論大会には、先生の熱心な説得で参加を決意した。相高からは久々の参加で、部長の私と後輩の島君の２人が出場した。入賞はできなかったが良い思い出になっている。私は語学関係の大学に入りたかったので、渡辺先生のお暇な時間にフランス語の読み方とか、簡単な動詞の活用形などを教わった。それが後に役に立った。

私は、昭和 39 年に東北学院大文学部英文科に入学した。教養科目として選択したフランス語のテストで、学年で私一人が満点を取り、発音も良いと助教授（東北大からの出向）の鎌田先生から大変褒められた。鎌田先生は渡辺先生の恩師ということが判明し、大いに喜ばれ『渡辺君はおれの弟子だから、君は孫弟子だな！』と高笑いされたのが懐かしい。

恩人渡辺高明先生は昭和40年まで母校におられたが、後には埼玉大に招聘され教授に進まれた。先生にはご無沙汰をしており赤面の至り。その内是非お会いし、御礼を申し上げたいと思っている。

（※１）「相中相高百年史」1998（平成10）年７月６日発行、「思い出の記」より。

（※２）　昭和39（1964）年卒、中村出身。

（※３）　相高普第１回、昭和24（1949）年卒。八幡出身。相高教諭（英語）：昭和38～40年。埼玉大学名誉教授。

（ 転記&※脚注　村山 ）